

令和6年度高山村地域学校協働活動における目標等の設定

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
高山村	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	教職員に対して、高山村の地域学校協働活動の取組や、学校運営協議会の意義や仕組みなどが十分に周知できていないことが課題となっている。	年度初めに、地域学校協働活動推進員と教育委員会職員が、学校長に高山村の取組について説明をしている。	学校職員に向けて、地域学校協働活動と学校運営協議会についての説明をする機会を設け、地域学校協働活動推進員と連携しながら、各学年に地域人材・資源を活用した体験的な学習ができるようにする。	学校職員が学校運営協議会や地域学校協働活動の意義を理解することで、地域資源を活用した体験的な学習活動を効果的に行い、社会に開かれた教育課程を実現する。	説明会や研修会に参加した教職員の人数(延べ人数)	35	人	60	60	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。 学校運営協議会の場において管理職へ向けて地域学校協働活動の取組について説明する機会を設けたり、教職員へ向けて地域学校協働活動推進員の役割や連絡方法についてのチラシを配布したりすることで周知を図った。 地域学校協働活動推進員の取組への理解が深まったことで、新たに地域人材や施設を活用した取組が行われた。 情報を提供する形式が多かったため、ワークショップ型の研修を行うなどして参加者が、より主体的に考えられるような形式を取ってほしい。
高山村	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	地域住民や小中学校の児童・生徒の保護者に対して、高山村で取り組んでいる地域学校協働活動についての周知が十分でないことが課題となっている。	地域学校協働活動推進員が学校運営協議会や村内の行事内で、取組について紹介する機会を設けている。	学校運営協議会の際や教育委員会と学校が連携した家庭教育学級やPTA行事の際に、教育委員会事務局員や地域学校協働活動員が取組の意義や目的、活動状況について紹介する機会を設ける。	保護者や地域住民が地域全体で高山村の子ども達を育てていくという機運が高まり、活動に参加する人が増える。	新たなボランティアの数や団体の数(延べ人数)	150	人	200	200	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた。 委員へ向けて地域学校協働活動の取組について説明する機会を設けたり、社会教育団体の会議の際に地域学校協働活動推進員の取組について紹介したチラシを配布したりすることで周知を図った。 地域学校協働活動の存在が周知されたことで、民生委員よりの提案で中学生が書いた書き初めを地域に配るなど、新しい取組が行われた。また、今までボランティアに参加していた人が新たな人を誘って参加するなど、人材の広がりが図れた。 活動によってはボランティアの人員が固定されていたり、不足したりすることがあるので、そうした活動への参加呼方法を工夫してほしい。
高山村	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	小学生が放課後や休日に子ども達が集まって活動できる機会が少なく、また、中学生が地域で活躍するような取組が十分でないことが課題となっている。	放課後子ども教室や夏休み中のきゅうじつ子ども教室、中学生による地域ボランティア活動の機会を設定している。	・毎週金曜日の小学校「放課後子ども教室」での体験的な活動を充実させる。 ・土曜日や長期休みを利用した「きゅうじつ子ども教室」を充実させる。 ・中学生による地域ボランティア活動の機会を充実させる。	子ども達が様々な体験的な活動や地域ボランティア活動を通して、多くの人との関わりを通して、生きる力や自己有用感を育む。	子ども教室・地域ボランティアへの参加者の参加者数(延べ人数)	500	人	600	800	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 地域人材を活用した放課後や土曜日の英語教室、金曜日の放課後に行っている放課後子ども教室において体験活動を取り入れた学習活動を行った。また、夏休み中には地域の文化協会書道部に協力してもらい書道教室を開催した。中学校にて中学生地域ボランティア活動について生徒に紹介する機会を設けたり、地域学校協働活動推進員の声かけにより協力してくれる事業所やイベントを増やしたりしたことで、参加する生徒が大幅に増えた。